

学生 ①

「海外研修において感じたこと」

このたび 10 日間に渡る UCLA への海外研修に参加させていただきました。本学法人、明海大学・朝日大学・UCLA の関係者の方々、同行していただいた先生方、受け入れをしてくれた UCLA の学生に感謝いたします。11 日間というのは研修が始まる前には長く思えていましたが、終わってみると短く、密度の濃い充実したものとなりました。

まず最初に驚いたことが大学の規模の大きさでした。広大な土地に大学の建築物が数多くあり、1 つの街のようになっておりました。職員・学生を合わせると 5 万人を超えるという人の多さに、また留学生も多く、多国籍の学生が共に学生生活を送っていることにも本学と異なり驚きました。

研修の中で様々な科について、UCLA の教育システムや卒後研修についての講義を受け、日本とは異なった視点でみることができ、学生が患者を治療している姿を見て刺激を受けました。

特に Dr. Takei の歯周病学の講義において、歯周病について分かりやすい比喻表現を用いて歯周病という一つの病気について講義して頂き、それまでに自分なりに理解していたと思っていた歯周病について更に深い理解をすることができました。歯周病の成立に関与するのは、遺伝的要因が 10%程度で、その他は、予防によって防ぐことができること、被覆冠などを被せるために歯質を削ることによってその削った辺縁部から歯周病原因菌の侵入路を作りそこから病気が成立してしまうこと、それにより骨吸収が進行してしまい最終手段であるインプラントを行えなくなることなど、様々な新鮮で興味深いことを教わりました。また、歯周病を防ぐ為には予防が最も重要であり、口の中の健康を維持するための口腔ケアが大切であります。日本ではまだその意識が低く、定期的ケアを受けている人は 3 人に 1 人とどまっているのに対し、米国では 2 人に 1 人が半年に 1 回程度、歯科医院などで口腔ケアを受けているという調査結果があるというのを以前に文献から読んだことを思い出しました。そういう点からも日本人のデンタル IQ は未だに低く、我が国においても、全ての世代で、定期的に口腔ケアを受けることができる体制の構築が重要であるということについても考えさせられました。歯科界のトップを走る、バイタリティにあふれる Dr. Takei の講義を直

接受けることができ、非常に貴重な経験であり感謝いたします。

11日間という短い期間の中で様々な貴重な経験をさせていただきました。その中で得たものは何よりも、UCLAの学生・朝日大学の学生達と友好を結べたことでもあります。異なる環境にて同じ志を持つUCLAの仲間と、またそういった異なる環境を共に感じた朝日大学の仲間、彼らと11日間の短くも濃密な時間を過ごしたことで、完全ではありませんが互いに理解し合うことができ、友好を深めることができました。自分の英語力の乏しさからUCLAの学生と意思疎通のできなかった部分もありましたが、Tryしつづけたことによって友好を結ぶことができたと感じております。貴重な共通の経験をした仲間達と今後、歯科医師となってもますます密に関係していけたらと願っております。

このような貴重な経験をさせていただけたことで、大きなモチベーションと、広い視野を持つことができました。本研修の関係者各位に重ねて御礼申し上げます。この貴重な経験をもとに自分の理想となる歯科医師像を模索し、日々精進していきたいと思っております。

学生 ②

「自分を変えたUCLAでの海外研修」

今回私が海外研修へ参加することを希望した理由は二つありました。

一つ目は、アメリカでの歯科医療の現状を学ぶことです。アメリカは最先端の歯科医療を提供している国であり、その技術や治療方法などをUCLAの先生方、学生達から情報を得て、その経験を日本で生かしたいと思ったからです。

二つ目は苦手であった英語を少しでも克服し、UCLAの学生と内容の濃い交流をすることです。UCLAはアメリカでも人気の高い大学であり、どのような学生がいるのだろうか、どのようなことを考えて学生生活を送っているのかなど、とても興味がありました。

この二つの理由は、実際に海外研修へ行く際には自然と自分の目標へと変わりました。UCLAでの研修を心待ちにすると同時に不安な気持ちもありました。英語が得意ではないため、コミュニケーションが上手く取れるのかとても不安でした。しかし実際にUCLAへ到着し学生や先生方と交流すると、とても優しく接して下さり笑顔の絶えない10日間となりました。講義では分かりやすい英語で丁寧に教えてくださり、UCLAの学生も毎日のように様々なイベ

ントを用意して私たちを心から楽しませてくれました。

特に心に残っているのはクリステンセン先生の自宅へ招待された時のことです。クリステンセン先生は2011年3月11日に起きた東日本大震災をきっかけに日本の学生に少しでも楽しんで貰いたいとのことで2012年から明海大学と朝日大学の参加する海外研修プログラムで自宅を開放し、パーティを開いて頂いていることを知り、とても感銘を受けました。そこでは昨年度の海外研修プログラムに参加したUCLAの学生達も集まり、アメリカでの歯科医療やプライベートのことまで様々な話をするのができ、素晴らしい時間を過ごす事が出来ました。

UCLAでは学生時代から患者を任されており、同じ学生とは思えない程逞しく見えました。また講義などで積極的に質問しており、物怖じせずにチャレンジする姿は日本ではあまり見られない光景なので、日本とアメリカでの学生生活の違いにも驚かされました。私たちも講義や実習へもっと積極的な姿勢で参加する必要があると感じました。

私はこの海外研修プログラムに参加することで自分を変えるきっかけになりました。日々の生活では目標があやふやで、何となく時間が過ぎて行く、そのような生活を送っていました。この研修期間でUCLAの学生から特に強く感じたのが、目標がしっかり定まっており、その目標に対して努力しているということです。UCLAの学生達の持つ勉強に対する意欲や積極性を見てこのままではいけないと痛感しました。私自身も、この海外研修期間では二つの目標を立てることで充実した時間を過ごすことが出来ました。今後は目標を立てて、その目標に対して努力していきたいと思います。

このような貴重な機会を与えて下さった明海大学と関係者の皆様に心より感謝しています。そして、後輩の皆さんには是非この海外研修に参加して自分を変えるきっかけにして欲しいと思いました。

学生 ③

「UCLAでの歯科医療と明海大学で学んだ歯科医療の違い」

入学してからずっと憧れていたUCLAへの研修が決まった時は、やっとチャンスを掴めたという感覚でした。明海大学歯学部への進学理由でもありましたし、在学中の目標でありモ

チベーションの1つでした。研修先が決まってから研修に行くまでの期間は楽しみもありましたが、明海大学を代表して研修に参加させていただくことにプレッシャーも感じました。自分にとっては初めての海外渡航だったので分からないこと、不安なことばかりでした。

そんな中、カリフォルニアに着き不安を一掃されました。英語力の無さが不安要因の多くを占めていたのですが、須田先生の堪能な英語力のおかげでスムーズに入国もでき非常に助かりました。異国の文化がどれほど違うのだろうと身構えていた部分もありましたが、カリフォルニアの街並みは日本に流入している文化や音楽、映画の広告など通じるものも多く感じられました。

UCLAでの研修は実習、病院見学よりもドクターによる講義を受けることが主でした。Dr. Silvaの講義で小児の前歯部の3級窩洞の修復の際、日本で習ったのとは異なり、健全な部位をわざと切削しアンダーカットを付与することで良い接着が得られるとおっしゃっていたのが印象的でした。また、Dr. Nishimuraの講義では顎骨壊死について露出型と瘻孔型の二種があり、顎骨壊死に対してアスピリンを投与すると悪化してしまうので、アメリカでは抗生物質を投与して口腔洗浄を行うのが主な治療であることを学びました。Dr. Takeiの講義は最も興味深い内容でとても刺激的でした。彼は歯周病科のドクターであるが、患者をどう治療していくか？よりも患者にどう理解してもらえるか？つまり「予防」をすることがいかに大切であるかを教わりました。多くのドクターはインプラントやブリッジなどの「治療」をやりたがるが、そうではなく口腔清掃を患者にきちんと教育、理解してもらうことで虫歯、歯周病、歯を抜く状況にさせない事が大事であると教えてくださりました。彼の言葉で「予防することで患者を減らすことがこれからの歯科医師の仕事であるべきだ」が一番心に残り、また今までの自分のなりたい歯科医師像を変えてくれました。UCLAの学生と交流して明海大学のシステムとは異なり学生のうちから彼らは患者を受け持っており患者を治療していることを聞き、同じ学生でありながら大きな差を感じさせられました。しかし、彼らの部分床義歯の実習の様子を見学させてもらった時は、明海大学での実習風景と似ているなど感じ安心もしました。

UCLAの学生は私達の些細な文化の違いにも興味を持ってくれて、文法もままならない私の英語を頑張って聞き取ってくれました。彼らのおかげで、日を重ねるごとにスムーズに会話ができるようになり、英語力も上達した気分になりました。休日に連れて行ってもらった、ドジャースタジアム、ディズニーランド、ユニバーサルスタジオ、全ての場所に今年の学生

がついてきてくれた姿を見て、この国際交流の双大学の絆の深さを感じました。UCLA の学生の人柄も良かったおかげで、異国の地で研修という不安を感じることなく過ごすことができました。この 10 日間の研修を通しアメリカで生涯の友人ができたこと、また明海大学で学んだ事と異なる考えや歯科医療の実態に直接触れることができ、世界的に有名なドクターの講義を聞け、朝日大学にも友人ができ、自分の人生においてこんなにも貴重な経験は今までになく、本当に感謝しています。これからも国際交流が続いていき、このような素晴らしい体験をぜひもっと多くの後輩達に経験してもらいたいです。

最後になりますが、円滑にかつ私たちが楽しく研修できるように支えてくださった須田先生をはじめとする大学関係者の皆様、研修を共に過ごした UCLA、朝日大学の学生の皆様、朝日大学のインストラクターの先生、UCLA の諸先生方、関わった全ての人にこの場をお借りして感謝を申し上げます。この経験を活かし、これからも UCLA の学生との交流を深めていき、自分の目指す歯科医師になれるように努力を続けていきます。ありがとうございました。

学生 ④

「刺激と気付きを得た 10 日間」

海外研修に参加を希望する理由は人それぞれです。私の場合は、歯科医師という共通の目標に向かって努力する海外の学生と交流を持ちたいということと日本とアメリカの歯科治療の違いを見てみたいという想いが強く、大学病院だけでなく開業医のクリニックを見学する機会もある UCLA での研修を希望しました。

出発前は自分の英語力に大きな不安がありました。しかし、UCLA の学生たちはみな優しく、私のつたない英語でも何とかコミュニケーションをとることが出来ました。アメリカの西海岸にあるということもあってか UCLA の歯学部はアジア系の学生がとても多く、3 年生ではおよそ 8 割の学生がアジア系でした。そのためか、今年のホストメンバーの中には日系人や日本好きのメンバーも多く、その点でも私たちは幸運だったと思います。

UCLA の学生たちはとても優秀な上、自分の担当するユニットで 1 日に 2 人ほど患者を受け持ち、治療計画の作成から実際の診療そして補綴物の作成まで、治療の全てを行っていました。その姿は、まだ臨床実習開始前の私にはとても羨ましく、焦りの気持ちが沸くと共に自

分も頑張らねばという大きな刺激を受けました。また、開業医である Dr. Kagawa のクリニックでは、補綴専門医である Dr. Kagawa は 1 日に 3~4 人の患者を一人当たり 2~3 時間かけて診察していると聞き、実際に睡眠時無呼吸症候群の患者に丁寧に時間をかけて治療を行っているところを見学できました。全てが自費診療のため、患者一人当たりの時間やコストをあまり考えることなく丁寧な治療を行うことが出来るアメリカの歯科治療の日本との違いに驚くと共に、理想的な治療とは何なのかということを考えさせられる時間でした。

一方で、多くの日本人が UCLA で活躍されている姿を見ることが出来たことや Dr. Kagawa のクリニックや併設された歯科技工所の見学で「日本人の仕事に対する姿勢や細かな作業が得意であることはアメリカの歯科業界でも大きな信頼を得ている」というお話を聞いたことで、日本人の素晴らしさや日本の歯科治療の長所にも気付くことが出来ました。また、Dr. Silva の小児歯科学の授業の「アメリカの子供のう蝕罹患率は 60%以上であり多数歯のう蝕や重症例も多い」という内容も驚きでした。私たちは、子供の多数歯う蝕や重症例は幼児虐待の疑いがある、と教わっています。主な原因は高額な治療費と甘いジュース類の大量摂取、ブラッシングに対する両親の協力のなさとのことでしたが、アメリカは子供の虐待や歯科治療の分野では先進国だというイメージを覆す内容に驚くと共に、日本の保険制度と歯科治療の素晴らしさも再認識することが出来ました。

海外研修が終わり、帰国してからおよそ一ヶ月が経ちましたが、UCLA の学生たちとは今も連絡を取っています。彼らの多くは 9 月の夏休みを利用してボランティアとして発展途上国に歯科治療に行くなど歯科医師としての意識がとても高く、素晴らしい刺激を与えてくれます。UCLA の学生たちとこれからも刺激し合って行けるように、歯学の勉強はもちろんのこと、英語も含め、自分も日本で努力しようと思うようになりました。これは、海外研修に行ったからこそ得られた気持ちだと思います。カリフォルニアはいつも雲ひとつない真っ青な空が広がっていました。海外研修は、自分自身の可能性もあの空と同じように大きく広がっているのだということを感じさせてくれた素晴らしい時間でした。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださいました宮田理事長をはじめ学校関係者の皆さん、そして温かく迎え入れてくださった UCLA の関係者の方々に心より感謝申し上げます。

学生 ⑤

「アメリカに行って気がついたこと」

私たちは、10日間カリフォルニア州ロサンゼルス大学、通称 UCLA に行って参りました。

先生も含め明海は女子が私一人ということや、初めての海外ということで出発前は多少の不安がありましたが、朝日、明海両大学のメンバーや先生方、さらには UCLA のホストの学生達にも恵まれ、研修中は何も心配する事などなく、毎日がとても充実していました。

UCLA での授業はどれも興味深く、また病院見学では日本との違いに驚きました。

授業で印象に残っているのは、日本人でありながら UCLA にて研究をしておられる Dr. Nishimura の授業です。Dr. Nishimura は BRONJ についての研究をされていて、その研究内容の一部を私たちに教えてくれました。BRONJ について私たちはある程度の知識を持っていたはずでしたが、その内容は私たちにとって衝撃的な内容でした。日本のガイドラインでは使うことが推奨されている薬が実はアメリカでは禁忌とされていることには本当に驚きました。

病院で驚いたのはエックス線に対する考えの違いでした。日本ではレントゲン撮影をする際には、被爆しないように厳重な管理の下撮影を行います。アメリカでは治療をしているその場で撮影を行っていました。その事について、私は Little Tokyo で開業している Dr. Kagawa に質問しました。Dr. Kagawa によれば、被爆は胸につけているフィルムバッチで確認できるし、照射されたエックス線は散乱してしまうからそんなに危険ではないと言われ衝撃を受けました。しかし大学での実習や実際に行っている治療、使っている機材などは、日本でも見慣れたものばかりで、同じなのだかと親近感を覚えました。

この研修で様々な初めてのもの、日本との違いに出会って、この世界はとても広く、私の知らない事であふれているのだと実感しました。気候の違い、言葉の違い、文化の違い…暑い所だと思っていたのに朝晩が涼しくて意外に快適だとか、H と F の発音がなかなかわかってもらえなかった事とか、アメリカの人はお店のレジの人にも「調子はどう？」と話しかける事などは実際に行ってみなければ、聞かなければ、感じなければ、知ることができないことです。またそれと同時に世界は私の手の届く所にあるのだとも気がつきました。今その事に気がついた私は、よりたくさんを知りたい、見たいという気持ちに動かされ様々な事柄に対しての意欲がわいてきています。この今の気持ちはアメリカに行かなければ決して得

られなかったでしょう。このような貴重な経験をすることができて、海外研修制度のある明海大学に入学して本当によかったと思います。是非後輩達にもこの制度を利用し、たくさんの様々な経験をしてもらいたいです。

しかしひとつ心残りがあります。出発前にもっと英語を勉強すれば良かったな…ということです。UCLAの学生は皆優しかったので、わかるまで何度も繰り返しゆっくり話しかけてくれ、また拙い表現しかできない私の話根気よく耳を傾けてくれました。でも聞きたかった事話したかった事を伝えきれなかった事がとても残念でした。次に海外研修に行く後輩達には海外研修を充実させ、より意味のあるものにするため、自分が後悔しないためにも英語の勉強をしておく事をおすすめします。